
Ka
na
ko

Ka
to



麗しのクロマチック・アコーディオン奏者が紡ぐ心躍る調べ

かとうかなこ

自分が歌う代わりにアコーディオンに歌ってもらえる表現ができたらい

19世紀にフランスで誕生して、日本でもポピュラーなアコーディオンだが今、熱い注目を浴びる女性奏者がいる。本場フランスでしっかりと腕を磨き、数々のコンクールで入賞。帰国後は幅広いフィールドで活躍するかとうかなこ。ミュゼットからオリジナルまで楽しみに溢れるコンサート・ツアーが近づく彼女をキャッチした。(文:中山久民)

クロマチック・アコーディオンを抱えてステージに登場する「かとうかなこ」の朗らかな関西弁は、相手に妙な気づかいをさせず、フツと溶けこませる。彼女の演奏するアコーディオンの音色や響きにも似た雰囲気がある。

彼女のアコーディオンのキャリアの転換点となるフランス留学のきっかけを聞くと、結構な無鉄砲娘ぶりが見えてくる。

「フランス語も分からへんまま、あんまり考えてなかったから行けたんです。高校3年の秋にフランス行きを決めて、そこからフランス語会話の学校に通いはじめて、本格的には向こうへ行ってから。パリ市立音楽院のクラシック・アコーディオン科に行きながらフランス語学校に通ってました」

女性アコーディオン奏者「かとうかなこ」が誕生するきっかけは、

「父親がアコーディオン好きで、趣味でやっている程度なんですけど。もの心ついた頃にはアコーディオンを弾いている父親がいて、父親から教えてもらっていた2歳上の姉が演っていたので、気がついたらアコーディオンを触っていました。親に言わせると「お前が演りたいって言った」ということになってるんです。高校まで普通の高校に通ってたんです。17歳の時にコンクールで優勝したんで、それがきっかけで本格的にアコーディオンを演らうと思ったら、日本の音楽学校にはアコーディオン科がないので、海外に行くしかない。最初、親には2年という約束で行ったんです」

フランスに行って、彼女は再度の転換点を向かえている。

「鍵盤アコーディオンを4歳から弾いてきて、フランスに行ったら先生も生徒も全員ボタン式アコーディオンやったんです。せっかくだからボタ



谷川賢作(p) ジャズ・ピアノを佐藤充彦に師事。バンド「Diva」やユニット「バリエーション」での演奏や、父である詩人・谷川俊太郎との共演も行うなど多岐に渡り活動。またテレビ、映画のフィールドでも活躍している。6/26(金)グリーンホール相模大野、7/12(土)入間市産業文化センターをはじめとするライブで共演を予定。

ン式も演ってみるかって、楽器を借りたら、鍵盤のように場所をとらないボタンなので音域が広いけど、楽器がコンパクトなんです。体の中に納まる感じのフィット感が良くて、段々楽しくなっていきました。19歳でボタン式に転向したので、このままじゃ、帰られへんと、2年延ばしたんです」

さらにアコーディオンを集中的に勉強したいと、CNIMA国際アコーディオン学院に入学している。

「人口300人のすごい田舎にアコーディオンの専門学校がありますってパンフレットを見て、アコーディオンにどっぷり浸かりたいと思って行っただけなんです(『Le ciel〜空〜』のジャケット写真の景色の中にある)。授業の一環としてみんなコンクールに出なあかん状況だったんで、お互い

に競い合っていました。いま私が普通に使っているアコーディオンは、左手の方のボタンを押すとコードが鳴る楽器なんですけど、クラシックを弾くための楽器だと左手も全部単音になってます。フランスにいるときはクラシックを弾くための楽器を勉強したんです。いまはいろんなタイプの楽曲を弾ける楽器を弾いていますけどね」

男性奏者のイメージが強いアコーディオンだが、そのわけは体力だという。

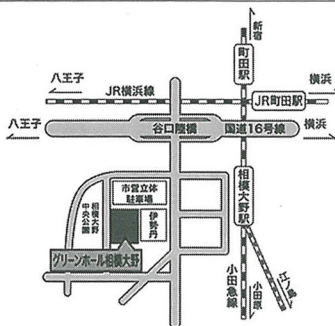
「アコーディオンは蛇腹が命なので、蛇腹でニュアンスからアクセントまで調節する楽器なんです。それが体の中に納まっていることで自由に扱える感じがあるけど、私が一番使う楽器が12キロもあるんで、どうしても腰に来ますので、体力は必要です。男性用、女性用とかあるわけじゃないので(笑)。アコーディオンの場合、左右対称ではなく、左の方に重心がくるんです。」

6/27日(金)のグリーンホール相模大野や7/12(土)入間市産業文化センターなどで行なわれる今回のコンサート・ツアーでは、ピアノの谷川賢作との共演も予定されている。

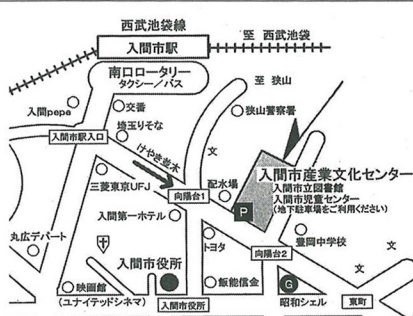
「私が演りたいのは、分かりやすく優しいもの。アコーディオンの音色でストレートに伝えていきたいというのがあって。自分が歌う代わりにアコーディオンに歌ってもらえる表現ができたらいいなと。今度の谷川賢作さんと演るコンサートだと、伴奏してもらって感じじゃないので、予測が立たないので楽しみなんです。アコーディオンもピアノも1台で完成している楽器なので、それを合わせた時にどうなるかとか、音と音で会話を楽しめたいいなと思います」

●かとう かなこ 79年、大阪府豊中市生まれ。4歳からアコーディオンをはじめ、17歳で「全日本アコーディオンコンクール」総合優勝したのをきっかけに高校卒業後、フランスのパリ市立音楽院へ留学し、卒業後にCNIMA国際アコーディオン学院でも学ぶ。在学中に「UNAF全仏アコーディオンコンクール」で第1位。帰国後の03年に『Le ciel〜空〜』、04年に『ひだまり』、06年にミュゼット作品集『ボナベチ』、07年にミニアルバム『独奏』などを発表。(中山)

かとうかなこ クロマチック・アコーディオン・コンサート公演概要



神奈川 グリーンホール相模大野 多目的ホール
 6月27日(金) 19:00開演
 出:かとうかなこ(クロマチック・アコーディオン)
 谷川賢作(ピアノ)
 料:¥4,000(前売/全席指定)
 問:チケットMove TEL:042-742-9999



埼玉 入間市産業文化センター
 7月12日(土) 18:00開演
 出:かとうかなこ(クロマチック・アコーディオン)
 谷川賢作(ピアノ)
 料:¥2,500(前売/全席指定)
 問:入間市産業文化センター TEL:04-2964-8377



近作「独奏／かとうかなこ」(TAKI'S FACTORY TAKI-K6002) 2007年8月に発表したソロ・アルバム。